

岩手・釜石港でテロ想定 of 保安訓練実施

～ 武装テロリストを海保等と連携して制圧 ～

当署は、9月16日、釜石港保安委員会（岩手県、釜石海上保安部、釜石警察署、釜石大槌地区消防本部等19機関で構成）が企画したテロ想定 of 保安訓練に参加し、テロリスト of 制圧や関係機関との連携を確認しました。

想定は、釜石海上保安部 of 巡視船「きたかみ」を被害想定貨物船に見立て、テロ情報を受けて港湾に警戒網を敷き、港湾職員が貨物船 of 乗組員を避難させました。

テロリストは、自動小銃、拳銃、ナイフで武装した5人。上陸した1人は、警備員を拳銃で脅し、車を強取して逃走。110番通報で臨場した釜石警察署 of パトカー2台と交通機動隊沿岸分駐隊 of 白バイ1台 of 警察官計5人が連携して制圧しました。（写真参照）

貨物船に乗船した1人は、海上保安官が身柄を確保し、負傷した船員1人を釜石消防署 of 救急隊員が処置し、病院に搬送しました。

残る3人のテロリストは、海上 of 不審船で逃走。釜石海上保安部 of 巡視艇「きじかぜ」が追跡し、自動小銃等を発砲して抵抗するテロリストに応射し、制圧しました。

訓練終了 of 講評で、仲谷署長は、「空港に比べ海港はテロリスト of 侵入を防ぎにくい。「フェンスが設置してあり、侵入防止は万全」という観測も聞かれるが、船員保護を目的とするソーラス条約に基づいたフェンスなので、侵入防止 of “返し” が海側ではなく陸側に傾いており、海からの侵入は比較的容易である。テロリスト of 潜入を防ぐためには、関係機関 of 連携した対応と、本日のような練度の高い訓練を世界に情報発信し、釜石港 of 守りは堅いとテロリストに認識させ、侵入を断念させることが重要である。」と強調し、訓練 of 継続と連携強化を訴えました。

釜石港は、ガントリークレーンや自動車専用道路 of 整備でコンテナ貨物 of 取扱量が増大していることから、釜石港保安委員会参加機関 of 連携強化等で、水際対策に万全を期すこととしています。



テロリストに對峙する警察官